

英、19日にコロナ制限を撤廃

- ◆英政府、19日から予定通りにコロナ制限を撤廃
- ◆英インフレが加速し、MPCメンバーのインフレ見通しに変化も
- ◆加ドル、米金融政策をめぐる思惑やリスクセンチメントなど外部要因に左右か

予想レンジ

ポンド円 149.50-154.50 円

加ドル円 86.00-89.00 円

7月19日週の展望

英政府は予定通り、19日にコロナ制限を撤廃する。最近、1日のコロナ新規感染者数は4万人を超えるなど急増しているが、英政府は「コロナと共に生きる」道を選んだ。社会的距離の確保とマスク着用などの規制が撤廃されるが、早くもロンドン市長が公共交通機関でのマスクの着用を19日以降も義務づけると表明するなど、政府の判断に懸念や批判の声が上がっている。コロナ感染再拡大への懸念と経済活動正常化による景気への期待感が交錯し、足もとではポンドに方向感が出にくい。

イングランド銀行(BOE)の金融緩和縮小をめぐる不透明感も、ポンドの方向感を鈍くしている。今週発表された6月の英消費者物価指数(CPI)は前年比+2.5%と約3年ぶりの高い伸びとなった。5月に+2.1%と2年ぶりにBOEが目標とする2.0%を上回り、6月は上昇基調が加速。BOEの「インフレ加速は一時的」との見解が問われる結果となった。5・6月英中銀金融政策委員会(MPC)でただ一人資産買い入れ枠の縮小を主張したホールデン委員が退任し、一時的にメンバーは8人となるが、8月5日の会合で最新の景気判断が公表される予定だ。BOEはインフレ率が一時的に3%超に達し、その後は減速すると予想しているが、ラムスデンBOE副総裁は14日の講演で「インフレ率が年内の一時期に4%に達し、その後もインフレ要因が和らぐにはしばらく時間がかかる可能性がある」と指摘した。「景気回復に伴いインフレ圧力が強まり、BOEは従来の想定より早期に緩和縮小の検討を開始する可能性がある」との見方も示した。また、サンダース委員は「刺激策の解除がまもなく適切となる可能性がある」と述べている。タカ派のホールデン委員は退任したが、MPCメンバーのインフレ見通しに変化が見られている。

加ドルは独自に売り込まれる材料は少ないが、カナダ中銀(BOC)が4月の会合でタカ派姿勢を強めたことを背景とした加ドル買いが一巡し、原油高も一服していることで買い材料も乏しくなっている。当面は米金融緩和縮小をめぐる思惑や株式相場のリスクセンチメントを睨みながら神経質な動きが見込まれる。BOCは今週の会合で政策金利を0.25%に据え置きし、毎週の国債買い入れを30億加ドルから20億加ドルに縮小することを決定した。景気回復に対して楽観的な見方を示すも、「物価の上昇は一時的」との見解を維持するなど、利上げは早くても来年後半以降だとのガイダンスは変えていない。アラブ首長国連邦(UAE)が原油の減産幅を縮小する新たな妥協案で合意し、供給不足への警戒感は後退した。ただ、エネルギー需要への期待は根強く、原油相場は堅調地合いを維持する可能性が高く、引き続き産油国通貨の加ドルの支えになりそうだ。

7月12日週の回顧

米金融緩和縮小をめぐる神経質な動きも、ポンドは英6月CPIやMPCメンバーの発言を背景とした買いも入り、ポンドドルは1.38ドル近辺、ポンド円は151円半ばで下げ渋った。加ドルはBOC声明文にもっとタカ派的な内容を期待していたこともあり、失望の売りも入った。原油安も重しに、ドル/加ドルは1.26加ドル前半、加ドル円は87円前半まで加ドル安となった。(了)